



パラリンピック ボート混合舵手 日本は予選6着で敗者復活戦へ

2021年8月27日 16時15分 [パラボート](#)

東京パラリンピック、ボートの混合舵手つきフォアで日本は予選のレースで6着となり、28日の敗者復活戦に回りました。

東京パラリンピックは27日から東京・江東区の海の森水上競技場でボートの競技が始まりました。

このうち混合舵手つきフォアで、日本は有安諒平選手と西岡利拡選手、木村由選手、八尾陽夏選手、立田寛之選手の5人で27日の予選2組に出場しました。

2000メートルで争われたレースで、日本は序盤からほかのチームにリードを許し、8分14秒09のタイムで6チーム中6着で、敗者復活戦に回りました。

また女子シングルスカルの予選2組に市川友美選手が出場しました。

市川選手は序盤から追いかける展開となり、13分50秒29のタイムで6人中6着となり敗者復活戦に回りました。

混合舵手つきフォア、女子シングルスカルともに敗者復活戦は28日行われます。

17歳の木村「慌てることなくできた」

ボート、混合舵手つきフォアの予選2組で6着だった日本は、28日の敗者復活戦に回りました。

17歳の木村由選手は「全力は出し切れなかった気がするが、そんなに慌てることなくできたと思う」と話していました。

有安諒平選手は「日本として準備してきたことが一つ形にはなったが、世界との実力の差も感じざるをえない状況だった。少しでも順位を上げる戦いをしていきたい」と話していました。

西岡利拡選手は「パラリンピックの雰囲気は特別なものがあるって、いい緊張感でレースができた」と話していました。

八尾陽夏選手は「すごく気持ちよくスタートを切れましたが、中盤失速したので、あす修正して臨みたい」と話していました。

かじ取り役のコックスとして出場した競技パートナー、立田寛之選手は「自分たちのねらいどおりにやりたいことができたところは多かった。暑さの中でのウォーミングアップの時間配分が思いどおりにいかなかったので、そこを修正して選手がいいパフォーマンスを発揮できる環境を作りたい」と話していました。